

すぎなみ

2021

# ピースフォーラム

戦争・原爆・原発・沖縄・平和と憲法を考える展示とイベント

## 報告集

「核も戦争もない平和な世界の実現へ」  
ーコロナパンデミックの中で問いかけるー



2021年11月2日(火)・3日(水)

会場：阿佐谷地域区民センター（4/5集会室）

# すぎなみ ピースフォーラム 2021 報告集

## 目 次

### はじめのことば

ピースフォーラム実行委員会代表 矢内 一弘 ..... 2

### I 各展示コーナーの報告

① 憲法と核兵器禁止条約 ..... 3  
② 忘れてはならない広島・長崎 ..... 4  
    \* 被爆者人間シリーズ ⑩ 松重 美人 ..... 5  
③ 原水爆禁止運動発祥の地・杉並 ..... 7  
④ 3・11原発事故から10年 福島の人々の声 ..... 9  
⑤ 沖縄のいまと日本の安全保障 ..... 11  
⑥ コロナパンデミックとこれからの社会 ..... 12

### II 記念講演の報告

「憲法・沖縄から考えたいこと」高嶋伸欣さん ..... 14

### III 資料：会場平面図 ..... 15

資料：配布した2回のチラシ ..... 16



## 2021年 すぎなみピースフォーラム

皆さんの協力で無事終了することができました。ありがとうございました。

今年のピースフォーラムは日取りに大変苦勞いたしました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大で、開催を断念せざるを得なくなり、予定していた高橋博子さんの講演もできず、講演原稿とコロナの問題、核兵器禁止条約のことなど「2020平和パンフ」として発表しました。

今年も当初の予定を8月6・7・8日にしていましたが、コロナ禍の感染爆発で予定を11月に、また会場も変更しました。ところが衆議院議員選挙の日程が11月7日になると、会場が期日前投票所になることで開催できないことになり、大変やきもきいたしました。今年も中止して、2年連続でピースフォーラムを開催できないのではと心配のもと、総選挙が10月31日となり、予定どおり、11月2・3日に無事開催することができました。みなさまのご苦勞に感謝いたします。

今年2021年は、「核兵器禁止条約」が51ヶ国の批准で1月22日に発効した記念すべき年です。「核兵器の終わりの始まり」として、核廃絶運動を核保有国・非保有国ともに世界に発展させていかなければなりません。核禁条約への日本政府の参加・批准を求めます。

今年のピースフォーラムはコンパクトに、よくまとまった展示になったと思います。「核も戦争もない平和な世界の実現へーコロナパンデミックの中で問いかけるー」というスローガンのもと、① 憲法 核兵器禁止条約発効 ② 原水禁運動発祥の地 杉並 ③ 忘れてはならない広島・長崎 人間シリーズ 松重さん ④ 福島原発事故から10年 ⑤ コロナパンデミックの中で ⑥ 沖縄のいまと日本の安全保障 の6つのパートに分かれ、平和運動の歴史的意義をまとめ、今日的課題についても提案いたしました。また各パートの説明として、20分の解説をおこない、見学者からの質問もあって、とても良かったと思います。

それとともに、講演として、琉球大学名誉教授の高嶋伸欣さんに「憲法・沖縄から考えたいこと」のお話を伺いました。コロナ対策で定員を30人としましたがそれ以上の参加を頂き、沖縄の現状を考える大変に良い機会となりました。高嶋先生ありがとうございました。

また、今年も後援をいただき、区広報への掲載など、杉並区・教育委員会のみなさま、会場の阿佐谷地域区民センターのみなさまに感謝いたします。

無事開催できましたことに深く感謝いたします。。

すぎなみピースフォーラム実行委員会代表 矢内 一弘





# 〔1〕 テーマ別展示の報告



\* 開会にあたっての実行委員会代表 矢内さんのあいさつと展示担当したみなさん  
11月2日(火) 午後1時～ 阿佐谷地域区民センター 3F 4/5集会室

## ① 憲法と核兵器禁止条約

核兵器が非人道的兵器として違法化！

### 【違法化の歴史】

戦争そのものを違法化する

- \* 1928年の不戦条約(第一次世界大戦後)
  - \* 1945年の国連憲章(第二次世界大戦後)
- ⇒これらは憲法9条に受け継がれている！

生物・化学兵器他を違法化する

- \* 1972年 生物兵器禁止条約
- \* 1993年 化学兵器禁止条約
- \* 1999年 対人地雷禁止条約
- \* 2010年 クラスタ弾禁止条約

### 【核兵器禁止条約の会議は続く！】

☆締約国会議(発効から一年以内、その後二年ごと)  
2022年3月に開催…

~~~~~  
日本政府はオブザーバー参加せよ！

### 〈想定される議題〉

- ① 条約の普遍化…多くの国が批准することを促す。
- ② 禁止事項の解釈
- ③ 核保有国加入に向けた準備

これは  
“核兵器の終わりの始まり”

条約は世界を変えていく！  
条約採択以降、世界で約100  
の銀行・金融機関が核兵器製造  
企業への投資をやめている！



④ 被害者救済

\*コロナ禍で分かったこと

- ☆核兵器はパンデミックに無力！
- ☆気候変動など人類の危機に対するにも全く無力！
- ☆軍拡競争をストップ、人類存続のために全力をあげよう！

憲法9条発案の幣原喜重郎

「100年後には、“予言者”と呼ばれるだろう」と、  
戦争のない世界を先駆けることを決意して発案！

100年後は、2046年。

今から25年後、少なくとも核兵器が廃絶されていることをめざして  
がんばりましょう！！



(佐藤 康尚)

## ② 忘れてはならない広島・長崎

杉並の被爆者団体・杉並光友会による例年の展示です。

広島・長崎の被爆の様子を写真や絵画・体験談などから、原爆雲の下で何が起こっていたのか、その被害の実相を示しました。

また、今年の「被爆者人間シリーズ」は、自ら被爆しながら“御幸橋の惨状”を撮影した中国新聞社カメラマンの松重美人さんです。

被爆者の高齢化で、被爆実態を聞くことができなくなる現状から、このように記録を残し、みなさまに伝承する大切さを改めて感じています。

これら展示の説明者は、96歳の井上惣左衛門さんです。

(矢内 一弘)



## 被爆者人間シリーズ (10) 松重 美人

広島が壊滅したその日、被爆した市民の実相をカメラに納めたひとりの報道カメラマンがいた。松重 美人(まつしげよしと 当時32歳)

◆大正2年(1913) 広島県呉市生まれ。旧制中学中退。◆昭和16年 芸備日日新聞入社。◆昭和18年系列本体の中國新聞社に移籍、写真部に所属。翌年以降、中國軍管区司令部の報道班員も兼ねる。◆昭和20年(1945)8月6日、原爆で被爆するも軽傷だったため、勤務先の新聞社に向う途中、御幸橋で応急処置を受ける被爆者の様子を撮影する。◆昭和44年(1969)中國新聞社を定年退職。それ以降は、被爆体験の語り部として活動を続ける。◆平成17年(2005)1月16日、急性腎不全のため92歳で永眠。



### 被 爆

松重さんは76年前のその日、昭和20年8月6日の夜明け前の警戒警報で軍司令部に向向。すぐに警報解除となり帰宅するとき、朝もやに浮かぶ広島街が美しく、戦争のさなかとは思えない平和な風景を見ているが、これが最後のチャンスとなることは知る由もなかった。

爆心地から南々東2,7キロの翠(みどり)町のわが家へ帰宅。妻(すみ江さん)とそまつな代用食の朝食をすまし、カメラ(マミヤシックス)に新しいフィルムを入れ替えると、再び出勤のため、八時前に家を出る。御幸橋(爆心地から2・3キロあたりまで来たとき、急に尿意をもようし家に引き返したそのとき……、突然チカッと全身に針を突きたてるような痛みを感じると同時に、青白い強烈な閃光が走り、大地震のように家全体が1メートルも浮き上がったような衝撃を受ける。1t爆弾が家の近くにおちたと思い、夢中で妻の手をひっぱって表に出て電車を横切って走った。ふと気がついてみると、二人は近くの芋畑のなかにもぐり込んでいた。朝なのにあたり一面うす暗く不気味な静けさ。

松重さんは、ガラスの破片で顔から胸にかけて真っ赤になりながら、何はともあれ、倒れなかったわが家に帰り、散乱した壁土の中から上着や帽子、何よりも大事なカメラを掘り出す。惨憺たる姿になった家に、ひとり残す妻も気がかりではあるが、報道関係に職をもつからには、今私事にかまけることはできないと、カメラをかかえて家を飛び出し、市内の中心部に向った。

### 二枚の写真

松重さんの後日談によると、

【…時計は9時半をさしていた。御幸橋までくると、早朝通ったとき確かにあった欄干が見

当たらない。よく見ると上手の欄干は歩道に積木を並べたように倒れ、下手は川に落ちこんでしまっていたのです。この時刻には、すでに広島市の繁華街をはじめ、いたるところから火災が発生して、おびたしい人の波でうずめられてきました

人びとは私とは反対の方向に、ぞろぞろと幽鬼のような格好で逃げてくる。とても、いつもの道からは新聞社に行けそうもありません。

しかたなく御幸橋へ引き返したときは、10時半頃でした。橋はすでに市の中央部辺りから避難してきた、魂のぬけたようになった人たちでいっぱいでした。その罹災者たちの、うめき苦しむ姿はさながら地獄絵図です。

橋の西詰めの巡査派出所で、ひとりの巡査が何の油だかわからないが、一斗缶をぶちぬいて火傷した膚にぬってやっています。何百人という人間が死の影に包まれて苦しんでいる。写真効果としては最大の被写体です。

私はこの惨状にカメラを向けることは苦痛でした。

だが、後世に残し伝えるのは写真以外にはない。ましてやこの場でカメラを持ち写せるのは、司令部報道班の腕章をつけている自分ひとりではないか。〈心を鬼にして早くシャッターを切れ〉私にささやき、せかす声が心のどこかにあるのです。

新聞カメラマンとして、いや軍の報道カメラマンとして恥をかくことは許されないと、思い切って橋の上で1枚シャッターをきりました。これには30分ぐらいかかり午前11時頃だったでしょう。

1枚撮ると少し気分が楽になり、5.6メートル近寄って2枚目を撮ったのです。このときは涙が出て、ファインダーが見えないのです。敵は酷いことをしやがったな。これが人間のする事かなと思うと、涙が止まりませんでした。・・・】

平成15年(2005)4月「なみだのファインダー」の出版を記念して開かれた、新藤兼人映画監督との対談の場で、新藤兼人は〈声なき声〉として次の様に語りかけている。

「松重美人さん、あなたはためらいながら勇気をふるってシャッターを切りました。広島市千日町三丁目御幸橋西詰。この映像こそ、原子爆弾の証言者として、永遠に人類の歴史に残るでしょう。

爆風に吹き飛ばされ、劫火に焼かれ、幽鬼となって助けを求める人びと、誰が何の目的で落したかも知らず、泣くちからさえない、ただただ命をまもりたいと手をさしのべてさまよう人々。のちになって、原子爆弾を何処の国の誰が落としたか、わたしたちは忘れはしませんが、ここに写っている人たちは、まだ知らない。それが哀しい。

戦争はこういうことをやるんだ、いくら叫んでも気持ちは晴れない。





そのとき、これを発明した科学者は成功を喜び、軍人たちは乾杯の盃を掲げていたのです。この写真は、言葉では言い尽くせない、ふかい声なき声を、人類に投げかけていると思います。…」  
 (文責・井上惣左衛門)

### 被爆者人間シリーズ 10回の軌跡

- 第1回 2011年 峠 三吉 (原爆詩人) 12回PF 東日本大震災の年
- 第2回 2012年 山口 彊 (広島・長崎で二重被爆者となる)
- 第3回 2013年 原 民喜 (被爆文学：夏の花) 三田文学
- 第4回 2014年 山口仙二 (国連で訴え) 被爆者運動・組織づくり
- 第5回 2015年 高橋昭博 (広島原爆資料館館長) エノラ・ゲイ機長会見
- 第6回 2016年 中沢啓治 (はだしのゲン：作者) 阿佐谷区民センター
- 第7回 2017年 永井 隆 (被爆医師「長崎の鐘」クリスチャン)
- 第8回 2018年 肥田瞬太郎 (医師：西荻診療所・被爆者運動)
- 第9回 2019年 谷口稜暉 (赤い背中の少年：世界で反核運動)
- 第10回 2021年 松重美人 (中国新聞カメラマン：御幸橋の2枚の写真)

## ③ 原水禁署名運動発祥の地：杉並

### 展示パネルが完成

「原水爆禁止署名運動発祥の地・杉並」の展示物の永年保存版作成が課題でしたが、今回の展示でパネル化が実現しました。「原水爆禁止署名運動発祥の地・杉並」の歴史を14枚の新しい展示パネルで明らかにしました。このパネルの完成により、ピースフォーラム（戦争・原爆・平和展）運動を次世代に継承していくという私たちの責務の一つを果たすことができたとします。





## 67年前、杉並の先人たちが起こした運動が 核兵器禁止条約発効に結実

1954年3月1日のアメリカのビキニ水爆実験による第五福竜丸の被災を契機に、杉並から始まった原水爆禁止署名運動は、2021年1月22日、核兵器禁止条約発効となって結実しました。人類史上はじめて、「核兵器は違法」とする国際条約が誕生したのです。67年前、杉並の先人たちが「水爆を禁止してください！」と立ち上がった運動が今日のたたかいに引き継がれています。その歴史を14枚の展示パネルでとどりました。

### \*14枚のパネルとそのテーマ

- ◆ アメリカのビキニ水爆実験で第五福竜丸が被災  
1954年3月1日太平洋ビキニ環礁で水爆実験に遭遇し死の灰あびる
- ◆ 第五福竜丸は「危険区域」の外で操業していたのになぜ被災？
- ◆ 第五福竜丸無線長久保山愛吉さん逝く
- ◆ 漁業被害と「早期決着」・・・解決を急いだ背景には米ソ開発競争・・・
- ◆ 魚商の立ち上がり・原水爆禁止を掲げて
- ◆ 買出人水爆被害対策市場大会 水爆実験をやめてください！ 損害補償をしてください！
- ◆ 杉並公民館と女性の活動
- ◆ 原水爆禁止署名運動のプロローグ
- ◆ 原水爆禁止・杉並区議会決議 原水爆禁止・署名運動杉並協議会結成
- ◆ 「水爆禁止」杉並全区で署名運動はじまる
- ◆ 署名総数は1年後には28万筆に到達 杉並区人口39万人の7割
- ◆ 杉並から全国へ広がる署名運動
- ◆ 原水爆禁止世界大会開催される 日本の有権者の過半数に当たる3200万名の署名集まる
- ◆ 核兵器禁止条約2021年1月22日発効  
原水爆禁止署名運動・・・  
歴史の大河は流れ

67年の時を経て結実  
(金田 克彦・竹内ひで子)



## ④ 3・11原発事故から10年

### 福島の人々の声



#### \* 原子力緊急事態宣言の中で

原発事故から10年の年をコロナ禍の中で迎えた。今回の展示では福島の人々の現在の声を通して、その背景を少しでも知りたいと思った。

#### 帰還

- 近所では次々に家を取り壊されている。ももとのコミュニティは跡形もない。これが本当に復興なのか。(91歳男性・富岡町に帰還)
- ◇ 近年避難指示が解除されてきたが、多くの人が「戻らないと決めている」と回答している。(復興庁調査)

#### 被ばく

- 今、コロナ禍、全世界のみなさんがつらい思いをしていると思います。福島の人たちは10年間そんな中にいるんです。(福島から保養参加の親)
- ◇ コロナとの類似点を次のように言う。「自粛生活。見えないウイルスに不安な日々を過ごさなくてはならない。原発事故があったあの日から、同じように見えない放射能に怯え、マスク生活で、外遊びや食べ物を制限しながら過ごしてきました」福島県の被ばく基準は20ミリシーベルトで他県の20倍。保養では放射能の心配のない土地で心身を休める。

## 立ち退き

- 本当に行くところがないんです。どうか住むところだけは奪わないでください。  
(女性43歳パート・東京東雲住宅に避難)
- ◇ 住宅支援も打ち切りとなり立ち退きを迫られる避難者がいる。

## 汚染水海洋放出

- 海を守るのはやっぱり漁業者だべよ。(小野春雄さん・新地町漁師)
- ◇ これまで漁業者は独自の放射能測定など努力を重ねてきた。ALPS処理水は約束にもかかわらず放出が決まった。汚染水であり、代替案がある。

## 小児甲状腺がん

- 2回手術したが2回とも辛かったので、今後再び手術することがないか不安。  
(20代男性・中通り)
- チェルノブイリ事故後に被ばくで増えたこのがんは福島でも多発している。しかし県の県民健康調査検討委員会は事故との関連はないと発表し、今後検査の縮小を目指している。体験者は「県の一斉検査には救われたし、感謝している。不必要な手術をしたかのような過剰診断論や縮小論はふざけている。(林竜平さん20歳)」と話している。

## エネルギー

- もし、東海第2が稼働して事故が起きたら、私たちと同じ思いをする人が、大勢生まれます。  
(双葉町からの避難者亀屋幸子さん)
- ◇ 原発の電気は総合的に高価格となり、環境問題としても深刻である。再生可能エネルギー社会に向かうためには現在の大手電力有利の仕組みを変える必要がある。

## まとめ

- (事故が奪ったものは) 基本的人権。家族、友人、家、仕事・・・全てです。  
(武藤晴男さん 63歳・浪江町から避難)  
(本多百合香)





## ⑤ 沖縄のいまと日本の安全保障

今年(2021年)は戦後76年、来年(2022年)は沖縄の本土復帰から50年  
 それほどの時を経てなお、  
 米国による沖縄の半植民地状態は変わっていません。

その象徴が辺野古新基地建設です。埋め立て区域に軟弱地盤が存在し、政府はその対策として約7万本の杭を海底に打ち込む改良工事を提案。ジュゴンやサンゴ、5800種の生物が息づき世界でも稀有といわれる海の環境が破壊されます。その上、遺骨が埋まった南部の土砂を埋め立てに使うまで工事を進めようとしています。



本土の防波堤とされた沖縄戦で、日本軍が首里防衛に失敗し南部摩文仁へ敗走したために、一般住民を含めて十数万人の戦死者が眠る地域です。沖縄県玉城デニー知事は、防衛省が県に提出した工事設計変更申請を不承認としましたが、沖縄防衛局は国土交通相に不服審査請求を申し立てました。防衛局も国交省も新基地建設推進の政府の身内で、防衛局が私人を装って、国交相に救済を求めることは制度の趣旨に反しますが、これまで何回もとられてきた手法です。これは一例にすぎず、沖縄県民の願いや地方自治さえ踏みこむ行為が日常茶飯事なのです。辺野古に限らず、普天間、嘉手納、北部高江等々など…。なにしろ日本の米軍基地の70%が沖縄に集中しているのですから。

沖縄本島だけではなく、中国・北朝鮮からの脅威を名目に南西諸島の島々、馬毛島・奄美大島・石垣島・宮古島・与那国島へ自衛隊基地建設が進み、日米共同の基地となることは必至です。

また、沖縄だけではなく、日本各地の米軍基地周辺で、まかり間違えば人命にかかわる重大事故や生業が立ち行かなくなるような事故が起こっています。米軍基地でのコロナ・クラスター発生は、沖縄だけとは限りません。日米地位協定により、日本政府は米軍に服従するかのよう



な姿勢です。

政府のアメリカに対しての及び腰は日本国民すべてを危険にさらしています。政府が進める安全保障は国民にとっての安全保障でしょうか。防衛という名で敵基地攻撃を可能とし、軍事費を激増

し、軍事対決で「平和」を維持するというのではなく、九条を持つ国の指導者として平和外交で国際社会における地位を確立する、あの国の指導者の言葉だからと耳を傾けさせる、そのような安全保障こそ、政府に求めたいと思います。

そのような思いで今年の展示を行いました。

(加藤 恵子)

## ⑥ コロナパンデミックと

### これからの社会

＊ 2019年末中国武漢市で発症した謎の肺炎患者、これが新型コロナ感染症と診断された。翌年3月にはWHOが「パンデミック」を宣言して世界に警告を発した。その後新型コロナは世界中に広がり、2021年9月末までに2億4千万人が感染、死者は500万人を超えた。日本では170万人が罹患、死者は1万8千人を超えた。

医療はひっ迫し在宅のまま放置されて亡くなる人も出て人々の暮らしは一変した。しかしワクチン接種が進んだことなどにより、9月には感染者数が激減してホッとしたものの年末には新たな変異株が出現して、予断を許さない状況が続いている。この体験から私たちが学ぶべきことは何か？



5つの項目に分けて展示したが、  
展示に当たっては、図やグラフを使って見てわかる展示を心がけた。

1. 新型コロナウイルスってどんなもの？・・・大きさ、かたち、発生源、人体への影響、感染対策などを専門家の監修による子ども向け紙芝居を利用してわかり易く表示した。
2. コロナ禍のもと国民の命とくらし守られたでしょうか？

＊ '20年1月から'21年9月まで5波の感染者数の推移を1枚の図に表し、その中に4回

の緊急事態宣言、一斉休校、GOTO実施、布マスク配布、オリパラ開催など政府の主な政策を記入して、全体像がわかるように工夫した。

(1) 感染拡大と医療のひっ迫・・・

日本では新自由主義的発想の医療抑制政策によってICUベッド数や医師の数は世界の先進諸国と比較して少なく、保健所や医師数も減らされ続けてきた。ワクチン接種も大幅に遅れた。

(2) 繰り返された感染拡大と緊急事態宣言・・・

専門家の意見をよく聞かず、対策が後手にまわり、感染拡大を招いた。飲食店観光業など休業や廃業が相次いだ。失業者が増え、特に女性やひとり親家庭の困窮が目立った。杉並での実態を調べるため、福祉事務所や社会福祉協議会を訪ねて話を聞いた。また、継続して生活困窮者への食糧支援を行っている「もってけ市」などに参加して実情把握に努めた。新日本歌人会の奈良達雄さんが選んだ「コロナに向き合う歌人たち」の短歌を短冊に書いて展示に生かした。憲法25条「生活保護は権利です」を強く訴えたい。

3. 杉並の子どもたちの学びや遊びは守られたでしょうか？・・・

一斉休校や諸行事のカットにより子どもたちの学校生活も大きな制約を受けた。長年の運動が実って35人学級の制度化が実現した。保護者たちの連携によって区長要請に基づくパラ観戦を最小限に食い止めるなどコロナから子どもを守る取り組みを都教組杉並支部の先生たちが報告してくれた。

4. オリパラ強行とコロナ感染拡大・・・

コロナ禍でのオリパラ開催には6割から7割の人が反対や延期を望んでいた。尾身茂政府分科会会長は「緊急事態下のオリンピック普通はない」。患者を受け入れている病院や医療関係者からも『もうキャン オリンピックむり！』との悲鳴が上がった。元日弁連会長の宇都宮健児さんらは60万以上の反対署名をネットで集めた。アスリートは大会組織委員会と世論の板挟みとなりながら開催に反対する意見も聞かれた。

5. コロナ後あなたはどんな社会をのぞみますか？ご意見を聞かせてください。・・・

11人の方が意見を寄せてくれた。その中に「日本国憲法の現実化」と一言書いてくださった方がいてこれはみんなが納得できる答えではないだろうかと考える。

以上

(赤坂和子、山田ヒサ江、  
早川美和子、都教組杉並支部)



パラ観戦：子ども動員させないで：区役所前

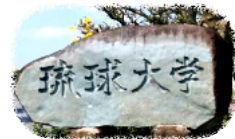




## 〔2〕 記念講演の報告

### 「憲法・沖縄から考えたいこと」

高嶋 伸欣さん（琉球大学名誉教授）



——日本国憲法公布75周年の当日・沖縄復帰50周年の日を前にして——



- ① 11月3日に「沖縄」と言えば？ ——「日本国憲法」へのこだわり
- ② 密航船が運んだ「日本国憲法」を我がものに変えた沖縄民衆の不屈の戦い
- ③ 「愚直とも思える運動」が突き崩した“厚い壁”と「本土」の“醜い日本人”
- ④ GHQ支援憲法下の“クーラー”で涼む人々 VS 自力獲得憲法下で“室外機”と闘う民衆

### 「改憲は絶対許せない」

11月3日は日本国憲法公布75年目にもあたることから、11月2・3日に開催しました。

記念講演は杉並に居住されている高嶋伸欣先生で「憲法・沖縄から考えたいこと」と題して話していただきました。その一部を紹介します。



### 人権への渴望

日本国憲法の全文が掲載された古い新聞、「さてこの新聞が出されたのは、いつ・どこでしょう？」

5月3日でも11月3日でもなく、5月15日。沖縄復帰が実現し、日本国憲法が適応されることになった地元沖縄の新聞です。復帰前の沖縄は、米国憲法も国連憲章も無視され、米軍軍政下で人権を踏みにじられてきました。

### 皇民化教育

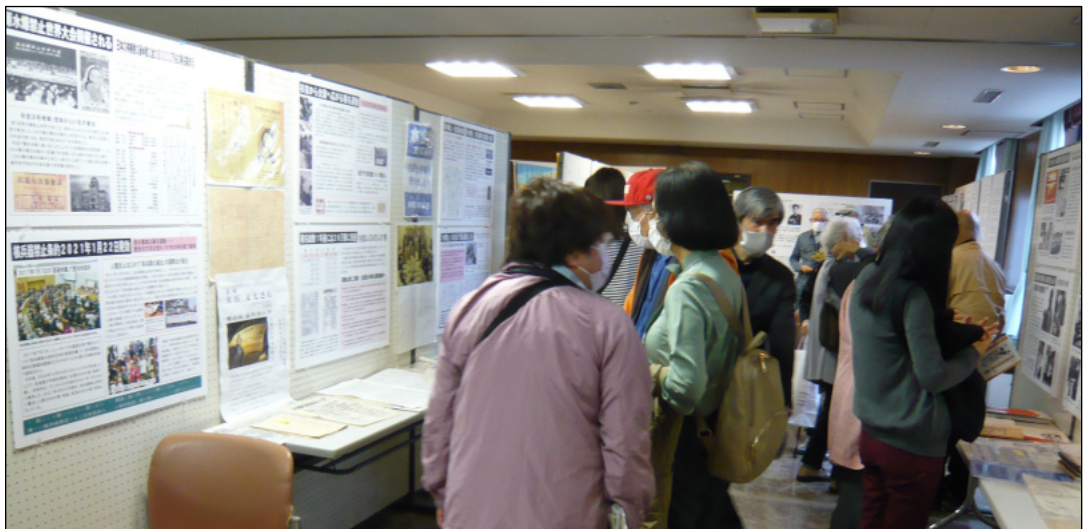
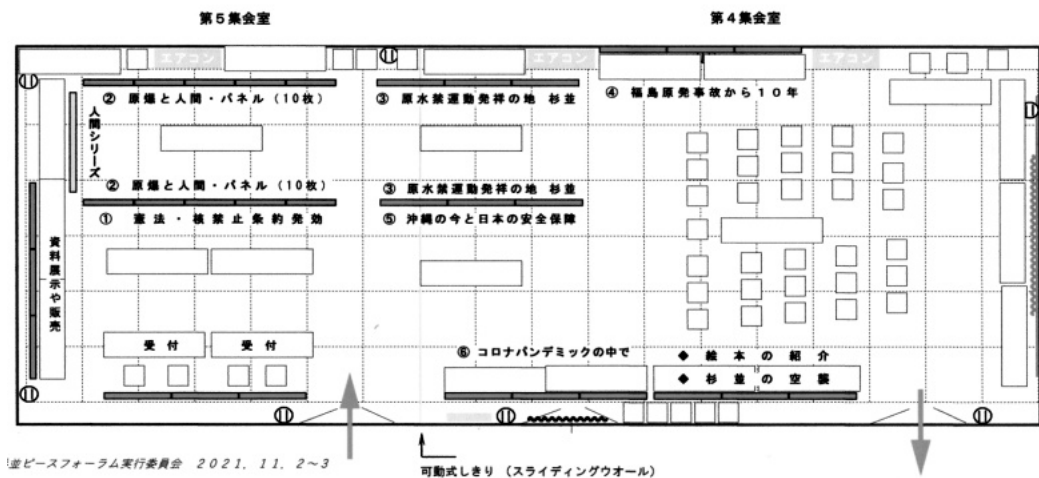
米軍の沖縄上陸にあたり、大本営は3週間もてばと考えていたようですが、4月から6月まで

3か月も続き、この間支配者たちは体制維持＝天皇制護持に腐心。この遅すぎた聖断のために、住民の虐殺・集団死がおきたのです。この背景には、戦前の皇民化教育があり、沖縄は本土以上の教化があったのです。

## 沖縄から学ぶ

先生の話聞くことで、沖縄の歴史を知らないという政治家もいたが、知らないですまされないと改めて思いました。今また台湾海峡危機がいわれ、軍事対決では、ことは解決せず、平和外交こそ大切で、改憲は絶対許せないと思いました。

(佐々木 征)





2021 **すぎなみ**  
**ピースフォーラム**

11月2～3日  
に延期

昨年は実施を見送った「すぎなみピースフォーラム」ですが、昨今の新型コロナウイルス感染が拡大する状況から、8月の実施を11月に延期することになりました。

11月には再びコロナウイルス感染が拡大する状況から、8月の実施を11月に延期することになりました。今年も新型コロナウイルス感染が拡大する状況から、8月の実施を11月に延期することになりました。

2021年は、1月22日に「核兵器禁止条約」が発効した歴史的な年になりました。それは「核兵器の終わりの始まり」です。広島・長崎への原爆投下から76年、世界には100発の核弾頭(2021年現在)が存在します。核戦争は、人類絶滅の危機であり、核戦争に勝者も敗者もいません。戦争被害国日本の核兵器禁止条約への参加、批准は何としても実現すべき課題です。

現在のコロナパンデミックの中、私たちの生活は固く息を吐け「安全・安心」を今に入れるべきなのではないでしょうか。失われた日常を取り戻すことを、みんなで考えたいと思います。

すぎなみピースフォーラム実行委員会 矢内一弘

11月2日 13:00～18:30  
3日 10:00～16:00  
阿佐谷地域  
区民センター3F  
第4・5集会室

「すぎなみピースフォーラムのあゆみ」  
杉並区は、「原水爆禁止署名運動」の発祥の地として、恒久平和・核の廃絶を願う「平和都市宣言」を行っています。  
2000年に第1回「杉並平和のための戦争・原爆展」としてスタートし、2005年からは「すぎなみピースフォーラム」と名称を変え、区の後援も継続して現在に至っています。  
今年度は、第22回の開催となります。 【連絡先】矢内一弘 090-6050-0651

後援 杉並区・杉並区教育委員会

「核も戦争もない  
平和な世界の実現へ」  
「コロナパンデミックの中で問いかける」

夏の開催を11月に延期する通知:チラシ:表面

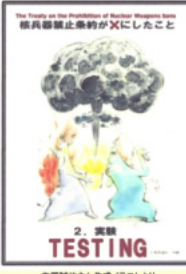
ピースフォーラムに向けて **私の一言**

・世界中で猛威を振るうコロナ、地球規模の問題が自分の生活をこまごまで覆えてしまうなんて一先隔ちなほど地球規模問題も、核兵器も、きっと同じなのではないか。そんな中で核兵器禁止条約！ (H)

・新しい日常を作っていくため、安全保障の基礎を、国家から個人、人間に委ねよう。その観点も、憲法の平和主義です。(Y)

・改善して緊急事態条項って、緊急事態宣言とは全然別物だったんです。似た言葉だからうっかりしました！ (I)

・昨年は中止、今年は秋に延期せざるを得なくなり、悲しいやら嬉しいやら、腹立たしいやら・・・  
「沖縄の思い」をうまくでも伝えたい、伝える必要があるのに(K)



・敗戦、軍隊をもたない日本の誕生。しかし朝鮮戦争を機に軍需が復活、香取海軍工廠が体制下に組み込まれ、軍法は創設された。

今、国際的には核兵器禁止条約にみられるように、小国と市民社会の運動が優勢し、地球を守る運動へと発展してきている。コロナ禍の日本も変わらなければいけない時ではないか。(S)

・憲法9条を発案した幣原喜一郎首相は「百年後には、この国が」と呼ばれるだろう」と喝破しました。2046年まであと25年、核兵器禁止条約が発効し核兵器が「違法化」されたい。核兵器がなく、9条が実現した世界が現実化するのにはまだ時間がかかります。ぜひ実現させましょう！ (S)

・平和を守れ＝日常を守るという、井上公子さんの言葉をこのコロナ下でみしめて。(y)

夏の開催を11月に延期する通知:チラシ:裏面

2021 **すぎなみ**  
**ピースフォーラム**

「核も戦争もない  
平和な世界の実現へ」  
「コロナパンデミックの中で問いかける」

新型コロナウイルス感染が拡大する状況から、8月開催を11月に延期して「すぎなみピースフォーラム」を開催いたします。みなさま、是非ご参加ください。  
今年2021年は、1月22日に「核兵器禁止条約」が発効した歴史的な年になりました。それは「核兵器の終わりの始まり」です。広島・長崎への原爆投下から76年、世界には1万3千発の核弾頭(2021年現在)が存在します。核戦争は、人類絶滅の危機であり、核戦争に勝者も敗者もいません。戦争被害国日本の核兵器禁止条約への参加、批准は何としても実現すべき課題です。

現在のコロナパンデミックの中、私たちの生活は固く息を吐け「安全・安心」を今に入れるべきなのではないでしょうか。失われた日常を取り戻すことを、みんなで考えたいと思います。

すぎなみピースフォーラム実行委員会 矢内一弘

11月2日 (火) 13:00～18:30  
3日 (水・祝) 10:00～16:00  
阿佐谷地域区民センター  
3F 第4・5集会室

講演 3日 13:30～14:30 (定員30人)  
「憲法・沖縄から考えたこと」  
講師: 高嶋 伸哉さん (琉球大学名誉教授)

11月3日は憲法公布76周年にあたります。そして沖縄復帰50周年を迎えます。琉球大学で教鞭を執られた高嶋さんから、沖縄から見た憲法についてのお話を伺います。

主催:すぎなみピースフォーラム実行委員会  
後援:杉並区・杉並区教育委員会

「すぎなみピースフォーラムのあゆみ」  
杉並区は、「原水爆禁止署名運動」の発祥の地として、恒久平和・核の廃絶を願う「平和都市宣言」を行っています。  
2000年に第1回「杉並平和のための戦争・原爆展」としてスタートし、2005年からは「すぎなみピースフォーラム」と名称を変え、区の後援も継続して現在に至っています。  
今年度は、第22回の開催となります。

新型コロナウイルス感染により予定を変更する場合があります。マスク着用・手洗いや消毒・3密の回避をお願いします。

【連絡先】矢内一弘 090-6050-0651

本番:11月開催の通知:チラシ:表面

核兵器禁止条約への参加・批准を



展示コーナー紹介

《憲法と核兵器禁止条約》コーナー  
憲法の平和主義がどのような背景から生まれたか、また核の廃絶から人間性回復へのめざす「核の廃絶」だけでなく、「核の終わりの始まり」を考えています。

《原水爆禁止署名運動発祥の地 杉並》  
1944年3月1日の原爆と広島長崎の原水爆実験被害を契機に、杉並から始まった原水爆禁止署名運動は、本年11月、70年の節目を迎え、原水爆禁止条約となりたくて拡大しました。その歴史を学びます。

《福島原発事故から10年》コーナー  
「核被害に10年の節目があります」(10代男性・いわき市から避難)「福島の人たちのいろいろな声」との背景を紹介いたします。

《沖縄の今と日本の安全保障》コーナー  
憲法、沖縄返還協定を踏まえて、島内からなっている自然保護・遺構上・辺野古新基地建設・差別的地域格差などについて考えます。

《コロナパンデミックのなかで》コーナー  
コロナで医療崩壊や失業、貧困、格差の拡大など新しい日常の不安定さが目立ちました。安心して暮らせることへの社会のあり方を問いかけます。

「戦争と平和の沖縄をどう思う？」

1945年、幣原喜一郎首相は、100年後の世界を見通して、戦争・戦力の放棄の憲法9条を発案しました。100年後の2046年まであと25年です。世界は、核兵器禁止条約が発効せしめ、ヒロシマ・ナガサキに二度と戻らない惨劇をたらしめた「核兵器禁止条約」が発効したのです。私たちは、唯一の被爆国だからこそ、その大きな歴史の歩みの推進の役割を果たすべきと考えます。原水爆禁止署名運動は、みごとその役割を果たしてきました。今度は、日本政府自身がその役割を担おうと考えます。

本番:11月開催の通知:チラシ:裏面